

1. 内外政

- ・11日、勾留中のフィラト議会議員(自由民主党党首、元首相)に関し、更に30日間の勾留延長が決定。
- ・20日、カンドゥ議会議長(民主党)は、民主党は全ての政党と協議し、テクノクラート内閣を形成することを支持する旨発言。
- ・25日、カンドゥ議会議長は、12月にモルドバ議会とガガウズ自治区議会の間設置される作業部会の初会合が開催される旨発言。
- ・29日、キシナウにおいて大規模な反政府抗議運動が開催された。主催者の発表によれば、数万人がキシナウ市中心部の国立大集会広場に集まり、現政府の退陣を要求した。
- ・29日、トランスニストリア地域「最高会議選挙」及び同「地方選挙」が実施され、「最高会議」全43議席中31議席において、シェフチューク「大統領」(復興党)と対立関係にある革新党もしくは「シェリフ・グループ」の候補者が勝利を収める見込み。

2. 経済

▼マクロ経済

- ・5日、モルドバ中央銀行は、2015年のインフレ予測を8月の9.3%から9.7%まで引き上げ。
- ・11日、国家統計局は、10月のインフレ率が前年比13.

2%に達した旨発表。2015年のインフレ率は過去10年間で最大となる見通し。

▼経済改革

- ・13日、国家エネルギー規制庁の管理委員会は、7月17日～18日に決定した最終消費者に対する電気料金及び天然ガス価格の値上げを停止する旨発表。同庁は、同日、天然ガス料金に関し、2011年9月に設定された天然ガス料金と比較して9.8%の値上げとすることを決定。これは7月に決定されたガス料金よりも低い水準。
- ・20日、モルドバ議会は、上記の天然ガス価格の下方修正に関する法案を採択。

▼銀行部門

- ・6日、中央銀行は、新総裁の候補となる8名をいずれも不採択とし、引き続き新たな候補者を募る旨発表。ドラグツァヌ前中央銀行総裁は、政治的な圧力を理由として、9月21日に辞表を提出。

▼IMF

- ・12日、EBRDは、モルドバ政府に対し、出来るだけ早くIMFとの新しいプログラムに署名するよう提言。

※本月報ではモルドバの首都名「キシニョフ」(ロシア語読み)を暫定的に「キシナウ」(モルドバ語読み)と表記しています。
(了)